



私の3冊

増田 司

後輩に薦める 2 冊

V. S. ラマチャンドラン, サンドラ・ブレイクスリー (著), 山下篤子 (訳)
脳のなかの幽霊 (初版) 角川書店, 1999 年発行

ラマチャンドラン博士が、自身の臨床体験に基づく摩訶不思議な症状を、脳科学的に解説しています。ミラーセラピーを紹介した本として当時話題を呼んでいましたが、何気なく購入した本書に思いがけず衝撃を受けたことを覚えています。特に、当時担当していた難解な事例と同じ症状が記されており、見事にその答えを示していた行からは「脳損傷によっていろいろな症状が起こり得る、その理由は脳科学を勉強すれば理解できるようになる」と考えるきっかけを得た 1 冊です。どのような症状かは……ぜひ、読んでみてください。

奈良 勲 (監修), 吉尾雅春, 森岡 周, 阿部浩明 (編)
《標準理学療法学 専門分野》 神経理学療法学, 第 2 版
医学書院, 2018 年発行

理学療法教育現場で教科書としても使用される本書ですが、内容は非常に網羅的で守備範囲が広く、最新の知見や理論に則して記されています。まさに近代の神経理学療法の「標準」とされるべき書籍といえます。2018 年末に刷新された第 2 版では、実際の症例に沿ったクリニカルリーディングの具体例が紹介されるなど読みやすくなっています。現場で活躍している臨床家でも、本書を読み直せば、知識のアップデートや再確認ができと思っています。

自分の 1 冊

Mathias Bähr, Michael Frotscher (著), 花北順哉 (翻訳)
神経局在診断—その解剖, 生理, 臨床, 第 6 版 文光堂, 2016 年発行

私が本書を手にとったのは学生の時に購入した第 3 版ですが、とにかくよく開きました。脳の構造を中心に、システムや部位別の障害が詳しく記されており、現行ではカラーとなって見やすくなっています。なぜそのような症状を呈しているのか考える際に、本書はさまざまな解釈のヒントを与えてくれます。いまでは最新版に襷を渡して本棚に飾ってあるボロボロになった第 3 版が、私の自慢の 1 冊です。

■ますだ・つかさ 理学療法士 20 年目 医療法人杏林会リハビリパーク板橋病院リハビリテーションセンター
これまで回復期を中心としたリハビリテーション医療に従事してきました。学生のころから脳の機能や脳卒中リハビリテーションに関心があり、難解な書籍でも果敢に読み漁ってきました。今回は、それぞれ違った角度から脳卒中の奥深さを知ることができる 3 冊を選びました。いずれも私の臨床を支える大切な本です。